

育成モノづくり人材

Vol. 75

奈良工業高等専門学校

地道に働く人材でありながら創造的、地方材の育成に挑んでいるのが、奈良工業高等専門学校。5年間の本科学習で、専攻科目の比率を高め5年間で興味を持つ分野を卒業後、2年間の専攻科への進学が2割、を1年かけて研究する国公立を中心とする大進学が4割、就職4数に大学工学部の約2



後藤校長

【DATA】▷校長—後藤景子氏
▷所在地—奈良県大和郡山市▷学科構成—〈本科〉機械工学、電気工学、電子制御工学、情報工学、物質化学工学、〈専攻科〉システム創成工学、物質創成工学▷学生数—本科1022人、専攻科88人▷主要設備—電界放射形走査電子顕微鏡、X線光電子分光分析装置など▷主な進路—ダイキン工業、関西電力、豊橋技術科学大学、大阪大学・大学院など

国際競争力持つ専門家に

割といった地道が分か倍。同校が目指しているものは、最終到達点の15歳からの5年間で、大学卒と同レベルの技術者・研究者に育てることだ。本科(後藤景子校長)だ。を卒業した早成の技術者167単位に及ぶ密なカリキュラムで1年もの企業から入社の声から一般科目と専門

しかし企業からの人気が、技術者としての知識力だけではない。後藤校長は「がちがちのエンジニアをつくるつもりはない」と方針を語る。生徒が積極的に学びに関わるアクテ

賞「ロボコン大賞」を2年連続受賞。実践力を全国に知らしめた。文部科学省の15年度賞「ロボコン大賞」を立ち上げ、同校のシースと企業ニーズの組み合わせを加速。9月25日には奈良先端科学技術大学院大学と包括連携協定を結ぶ。共同研究や学生交流などを深めていく。加えて力を入れていく。力を持つ専門家のリ

でなく学会発表を想定した専門英語を学ぶ。専攻科は国際学会を舞台にプレゼンテーションする学生も多い。今後、正課外の学習計画「グローバル工学協働教育プログラム」をつくり18年半ばにも本格実施する。台湾やシンガポール、マレーシアの大学などの情報通信技術教育や共同研究などを通じ、国際競争力を持つ専門家のリ



高専ロボコンで最上位のロボコン大賞を2年連続で受賞

(東大阪支局長・坂田三子)
(金曜日掲載)